

秘境駅号と飯田線完全走破の旅

2018.10.20

秘境駅を巡る旅として、近年とみに話題になっていた飯田線の旅に出かけました。いくつかあるコースの中で、日程の合う阪急交通社の飯田線完全走破のコースに参加しました。

1 個人では行きにくい飯田線秘境駅の旅

今回の旅は名古屋駅を7:00の「しなの1号」に乗り、塩尻駅で乗り換えて岡谷駅まで行きます。ここから豊橋行に乗り飯田線に入ります。そして、飯田駅で秘境駅号に乗り換え六つの秘境駅に降り立ちます。これがメインで17:54に豊橋駅に到着し解散となります。

個人でこのコースを旅すると交通費11,300円、弁当700円として合計12,000円、でもこのツアーは7,990円です。しかも、秘境駅に降り立ち15分ほどの散策ができるのです。個人のツアーだと電車はもちろん待っていてはくれませんから、2時間から3時間後の電車で移動するしかありません。

つまり、一日の旅としては成り立ちません。参加して分かったことは、JRと旅行社がうまくタッグを組むことで生まれたツアーだったのです。やはり良い商品を生み出すには、しっかり考えて、しっかり検討することのようです。

2 初めて岡谷駅から豊橋行に乗車

岡谷駅のホームに立つと風がとても冷たいです、名古屋辺りとはかなりの温度差があります。塩尻方面を見ると高速道路の、コンクリートの橋脚がかなり高い所を通っているのが見えます。丁度そこへ下りの特急「あずさ」が入線してきました。私たちは岡谷発9:45の豊橋行に乗車して、飯田線の起点辰野駅に向かいます。この時初めて知ったのは、岡谷から豊橋までの直通列車があったのです。飯田駅で辰野と豊橋へそれぞれ折り返し運転をしているものと思っていました。それと、岡谷駅から乗った時にはすでに乗客がいました。岡谷駅が始発ではないのです、あとで車掌さんに聞くと始発駅は「上諏訪」ということでした。



飯田線はJR東海、中央線はJR東の運転区間になります。ですから飯田線に入る列車は岡谷駅から出発するものと思っていたのです。でも岡谷駅には列車を常時停車させておくだけの線路はなく、JR東海の車両を一時的に止めておく設備がなくてはなりません。それがどの駅にあるのかで始発駅は決まるのだと思われます。中央線でもこの塩尻と岡谷の間は路線が複雑になっています。というのも、この間が開通したのは明治39年で、当時は長大トンネルを掘る技術がまだありませんでしたので、岡谷

---辰野---塩尻と結んでいました。それが昭和58年に約6kmの塩嶺トンネルが開通し、28kmあった距離は12kmに短縮され、辰野回りはローカル線となりました。

① 飯田線の概要

昭和 18 年に豊川鉄道、鳳来寺鉄道、三信鉄道、伊奈電機鉄道の私鉄 4 社が国有化されて、現在の飯田線となりました。一番の最初は明治 30 年豊川鉄道が豊橋～三河一宮間を開業、大正 12 年に鳳来寺鉄道が大海駅～三河河合駅間を開業、昭和 2 年に辰野駅～天竜峡駅間を開業、昭和 12 年に三信鉄道が天竜峡駅～小和田駅間を開業し、豊橋駅～辰野駅までの 195.7 k m の路線が開通しました。

南信州の飯田・伊那地方と三河の豊橋・豊川を結び、現在は豊橋駅～豊川駅を除きすべて単線で、94 駅の電化区間。特徴は辰野駅と豊橋駅を直通運転の普通列車が運転されていることです、これだけの長距離であればあまり直通運転は見られません。その普通列車は 5 時間 50 分の旅で、特急列車は「伊那路号」が豊橋駅～飯田駅に運転されています。

② 伊那地方は「リンゴ」と市田柿と…



辰野駅は田舎の小さな駅とばかり思っていたのですが、意外と広い構内を持つ立派な駅でした。その辰野駅を過ぎて走る沿線にはリンゴ畑が続き、赤いリンゴがたくさん実っていました。さすがにリンゴの生産は多いのだと感じました、種類も多くて「シナノスイート」「シナノゴールド」「シナノレッド」「サンふじ」「紅玉」「王林」などがあります。そのうちに柿畑も所々に見られました。この時は気が付かなかったのですが、しばらく走って伊那市・駒ヶ根を過ぎてしばらくすると「市田駅」「下市田駅」がありました。

はて、あの「市田柿」の産地はこのあたりかな、でも駅名の看板には伊那郡高森町となっています。が、後でパンフレットをよく見てみると昔は「市田村」だったのが合併して高森町となったことが分かりました。やはりここが有名な「市田柿」の産地だったのです。

高級干し柿の代名詞にもなっている「市田柿」は、高森町（旧市田村）が発祥地。立石柿（現在の飯田市三穂地区で生産された柿）が串柿となって江戸城下で名声を得ていた江戸時代後期、市田村には伊勢講の御師が住んだ伊勢屋敷という場所に優れた柿の木があり、これが現在の市田柿のルーツになったと言われています。その秘密は「晩秋から冬にかけて天竜川から立ち昇る朝霧が、ふっくら美味しい干し柿の秘訣」とか…

さらにリンゴや柿だけでなくブドウ畑も見られました。他にも観光協会のパンフレットを見ると、桃、ナシ、プルーン、ブルーベリー、さくらんぼなど果物の産地と分かりました。

3 秘境駅号に乗車

35 番目の飯田駅に 12 時 19 分到着、ここでいったん下車してお弁当を受け取り休憩です。そして、13 時 3 分発の「秘境駅号」に乗車します。すでに家を出てから 6 時間 30 分になりますが、お昼は列車の中で「秘境駅弁当」をいただきます。

少し駅前をぶらついてみましたら、駅舎は特産の「リンゴ」をモチーフにした赤い屋根の建物です。駅前には、飯田市出身で飯田線開通に大きな貢献をした「伊藤五郎兵衛」の功績をたたえる碑があります。



基盤状に整備された飯田の城下町は、中馬街道・秋葉街道を通じ交易品としてのお茶と、茶の湯の文化がもたらされました。また、水引の生産は全国の70%を占め日本一であることも知られています。

そして、飯田城の原型が築かれたのは室町時代、信濃守護小笠原氏の一派である坂西氏によるとされています。遠州街道・三州街道・伊那街道が交差する飯田は戦略的に重要な地でした。江戸時代の藩主は小笠原秀政です。(写真は飯田駅と秘境駅号)



少しして再集合の12時45分になり改札前に集合です。その時、飯田駅どまりの特急「伊那路」が入線してお客さんたちが降りてきました。

この時点になっても次の列車案内に、13時3分の秘境駅号が表示されていません。その時ツアーガイドさんと駅員さんの話しているのが聞こえました。その内容は「今は清掃中なのでドアを閉めています…」というもので、清掃が終わればドアを開けますので乗車していただきます、というもの。つまり、この列車が秘境駅号として運転されるのだと分かりました。

ということは、特急列車の回送は無駄だから、これを有効活用することに他ならない。そして、列車案内に表示されないのは、団体列車として運転されるために一般のお客さんに知らせる必要がないのです。それにしてもJRと旅行会社は、お互いに「メリット」を求めてすばらしい解決策（JRは回送運転のロス低減・旅行社は車両の貸し切り）を見出したと言えます。「秘境駅号」は3両編成で、1号車は私たちのグループ28人で貸し切り、阪急交通社の他のグループで2号車と3号車を貸し切ります。時流をとらえたとても素晴らしいアイデアと思いました。

~~~~~秘境駅とは~~~~~

秘境駅とは、山中にあり駅周辺に人家や人の気配が全く感じられず、鉄道以外での到達が難しい駅のことを言います。鉄道愛好家の牛山隆信氏が、自身のホームページで秘境駅ランキングを作成・紹介しています。飯田線の秘境駅はこの牛山氏の2018年1月14日のランキングをもとにしており、今現在9駅がランク入りしています。

今回はこの内の6駅に停車して、駅の周囲を散策できるのです。秘境駅号は団体向けの観光列車として高い人気を誇り、旅行会社はリンゴ狩りとセットにしたり、下栗の里巡りとセットにしたコースなど工夫をこらしてお客さんを集めています。その中で今回参加したコースは、飯田線を完全走破するというもの。ただ乗るだけと言えればそれまでですが、普段はなかなか行けな



い所なのでそこに意味があります。そして、今回の乗車で飯田線の沿線はなかなかの歴史の宝庫でもあ  
ることが分かりました。

### ① 最初の秘境駅はランキング 26 位の「千代駅」

飯田駅を出発して二つ目の駅「鼎駅」を通過しますが、この駅は願いがかなえられますというという  
キャッチフレーズで、記念の入場券が人気を博していました。この鼎駅と同じように縁起が良い駅名と  
して知られるのが秘境駅の「千代駅」です。その手前の天竜峡駅と千代駅の間で橋を渡りますが、飯田線  
は豊橋～辰野間で天竜川を 2 回だけ渡りますが、その一つ天竜川橋梁で、素晴らしい風景が眺められ  
ます。千代駅はすぐ前を天竜川が流れ、かつては砂利の採取が行われており、現在も砂利の積み込み作業  
に使われていた側線などが残されています。よく知られている天竜峡駅を過ぎると到着です。

駅名の看板に触れると縁起が良いということで、みなさん真剣になって触れていました。一度に大勢  
の人が触れようとするので、とても近寄れず私はあきらめました。

### ② ランキング 7 位の「金野駅」

昭和 7 年に開業した金野駅は平成 29 年の一日平均乗車人員は 1 人ランキング 7 位、停車する列車は午  
前 3 本午後 5 本です。森の中の谷合いにある、全国有数の秘境駅です。駅は飯田市にありますが、金野  
地区は泰阜村（やすおかむら）にあり、駅まで車で入ることが出来る数少ない駅です。駅から集落までは  
約 3.5 km の細く長い道のりをたどる必要があります。もっとも近い民家は 15 分ほどの所の養鶏場で、  
ここの玉子は「金の玉子」として一個 50 円とか。ここでは 15 分停車するので、ホームを降りて近くの  
橋を渡って枯れ葉を踏みしめながら山道を少し散策しました。木の葉の合間から駅に停車している列車



が見えて、これが絵になると言っておきながらみなさんシャッターを押していました。

このように山の自然に触れることで山間の秋を感じることは、普通列車で来て降りると次の列車に乗るには  
3 時間から 4 時間後になってしまうため不可能です。秘境駅号はあちこちの駅で降りて、秘境駅の雰囲気  
を満喫することができる新しいタイプの観光列車です。

### ③ ランキング 4 位の「田本駅」

昭和 10 年開業の田本駅は平成 29 年の一日平均乗車人員は 1 人の、断崖絶壁に立つ全国有数の秘境駅  
です。狭いホームは切り立ったコンクリート壁に沿って造られており、下は崖になっていて天竜川が流  
れています。駅の両側をトンネルに挟まれており、周りに全く建物を見ることはできません。列車後  
方の飯田側は短いトンネルが続いており、見るとトンネルの中にもう一つのトンネルが見えてい  
ます。車掌さんの説明では飯田線のトンネルは全部で 138 あるといいます。単純に計算すると 1400m  
走ると一つトンネルがあることになり、とてもたくさんのトンネルがあります。



上：金野駅 下：田本駅



#### ④ ランキング 17 位の「為栗駅 (してぐり)」

田本駅を出ると次の「温田 (ぬくた) 駅」で反対列車とすれ違いのため停車します。すると、豊橋駅発の「秘境駅号」とすれ違いました。次の駅は昭和 11 年に開業した為栗駅で、飯田線の中で最も読み方の難しい難読駅です。平成 29 年の一日平均乗車人員は 2 人。駅の目の前を天竜川が流れ、両側の山の間に流れる天竜川と、そこにかかる吊り橋のとても素晴らしい景色が広がっています。駅へのルートは唯

一この吊り橋「天竜橋」が外部と連絡しています。

この駅は平岡ダムの完成により周辺の集落が水没したことで、周りに人家が少なくなり秘境駅と呼ばれるようになりました。パンフレットを見ると、ここから徒歩 10 分ほどの場所に、天竜川が逆方向に流れを変える、名勝「信濃恋し」があります。

#### ⑤ 特急の停車駅「平岡駅」でお買い物休憩

為栗駅の次は特急「伊那路」の停車駅で天龍村の中心駅、平岡駅です。ここは秘境駅ではありませんが休憩とお買い物のため停車します。駅舎は村の観光拠点施設「ふれあいステーション龍泉閣」に併設されています。駅には立派な販売コーナーがありましたが、外では観光協会の皆さんがテントを張り横断幕で出迎えてくれました。列車を降りて真っ先にテントへ向かい、最初に言葉をかけてくれたのは「お茶をどうぞ」と紙コップを渡してくれました。こちらのお茶は「中井侍銘茶」として独自ブランドで知られています。しかし、私にはお茶の味がよく分かりません。隣のテントを覗いてみるとクルミがありました、少し小ぶりでしたが一袋 500 円とお値打ちなのでお土産に買いました。

#### ⑥ ランキング 14 位の「中井侍駅」

昭和 11 年開業で平成 29 年の一日平均乗車人員は 9 人という、急傾斜地に立つ信州最南端天龍村の秘境駅でランキング 14 位。ホームから眼下に天竜川を望むことが出来ます、「中井侍」という独特の地名は、かつて中井という侍が多くいたことに由来するとも言われています。この地区はお茶の産地として有名で独自ブランド「中井侍銘茶」として知られています。

そして、ここ天龍村には向方、坂部、大河内の三地区に国指定無形民俗文化財の「霜月神楽」が伝わります。1 月上旬、神と契約を交わした宮人と呼ばれる人々が、神聖な湯の周りで扇や剣などの「採り物」を手に夜を徹して舞います。



#### ⑦ 小和田と書いて「こわだ駅」ランキング 3 位

平成 5 年の皇太子殿下と小和田雅子様 (おわだ) のご成婚の際には、名前が同じということにあやかり、恋成就駅として多くの観光客が訪れました。駅は静岡県浜松市にありますが、静岡・愛知・長野の県境からほど近く、三県境界駅として知られています。

ちなみに駅は昭和 11 年開業で、平成 29 年の一日平均乗車人員は 8 人。飯田線の中では秘境駅ランキングの最上位にあります。一つ残念だったことは、この時

点でデジカメのバッテリーがなくなってしまう、以降の写真が撮れなくなっていました。気にはしていたものの電池のマークはまだまだOKだったのですが…

以上で秘境駅に降りての散策を終えましたが、この後も観光ガイド役の車掌さんはとても滑らかな口調で、地域の特徴を分かりやすく以下のような説明をしてくれました。



#### 4 小和田～豊橋の鉄道と沿線の特徴

##### ① 川を渡らずに戻ってくる鉄橋

向市場駅と城西駅の間にある「第六水窪川鉄橋」は、S字鉄橋と呼ばれる全長 400.7m で飯田線の中で最も長く、対岸に渡らない橋として有名です。どうしてこのような橋を作ることになったかと言えば、この辺り地盤が軟弱でトンネルを掘るのが難しかったことから、このような橋が造られました。

向市場駅から徒歩 50 分ほどに「高根城址」があり、ここは大河ドラマ「おんな城主直虎」のロケ地となりました。

##### ② 飯田線一番の急こう配

池場駅と三河川合駅の間は、飯田線で一番の急こう配で 117m を一気に下ります。この場所は難工事で北海道から専門の測量技師を呼んで工事を進めたといひます。

##### ③ 鳳来峡

三河槇原と湯谷温泉の間は宇連川に沿って走り、川底が大きな岩盤で知られる鳳来峡があります。夏場には多くの人でにぎわいます。温泉街の中心にある湯谷温泉駅には特急「伊那路」も停車します。

##### ④ 歴史に登場する長篠城、野田城

湯谷温泉駅を出ると本長篠駅のつぎに長篠城駅を通過します、すると直に広っぱの隣を抜けていきます。ここが長篠城跡で、鉄砲隊で知られる祭りの会場になります。天正 3 年 (1575) 長篠城を包囲した武田勝頼と織田・徳川の連合軍が設楽原で戦い、この時、織田信長は 3,000 丁の鉄砲を使い武田軍に勝利したといひます。

この戦いの前年 12 月に遠江三方ヶ原の戦いに勝利した武田軍は、浜名湖北部に滞在して越年。明けて 4 月に信玄は野田城を攻め落としている。そして、この戦いは武田信玄最後の戦とされています。

##### ⑤ 新城

明治 31 年に開業した新城駅は、駅周辺の商店街で毎月第 4 日曜日に日本三大軽トラ市の一つ「のんほいルロット」が開催され、多くの買い物客でにぎわいます。

##### ⑥ 三河一宮

この駅は名前の通り、三河国一宮「砥鹿神社」のそばにある駅です。最寄りの駅にふさわしい外観の駅舎から、600m ほど東へ行くと「砥鹿神社」に着きます。

##### ⑦ 豊川

西へ 300m ほど行くと、日本三大稲荷の一つとして知られる「豊川稲荷」があります。ここから東へ 600m ほど行くと、国の重要文化財に指定されている三重塔で有名な「三明寺」を訪ねることが出来ます。

こうして 195.7 km を走り抜け、予定時刻の 17:54 豊橋駅に到着して秘境駅号の旅を終えました。